

マネジメントシート

プロジェクト名：木質等の未利用資源を活用したバイオものづくりエコシステム構築事業
実施者名：東レ株式会社

(1) 組織内の事業推進体制
組織内体制図

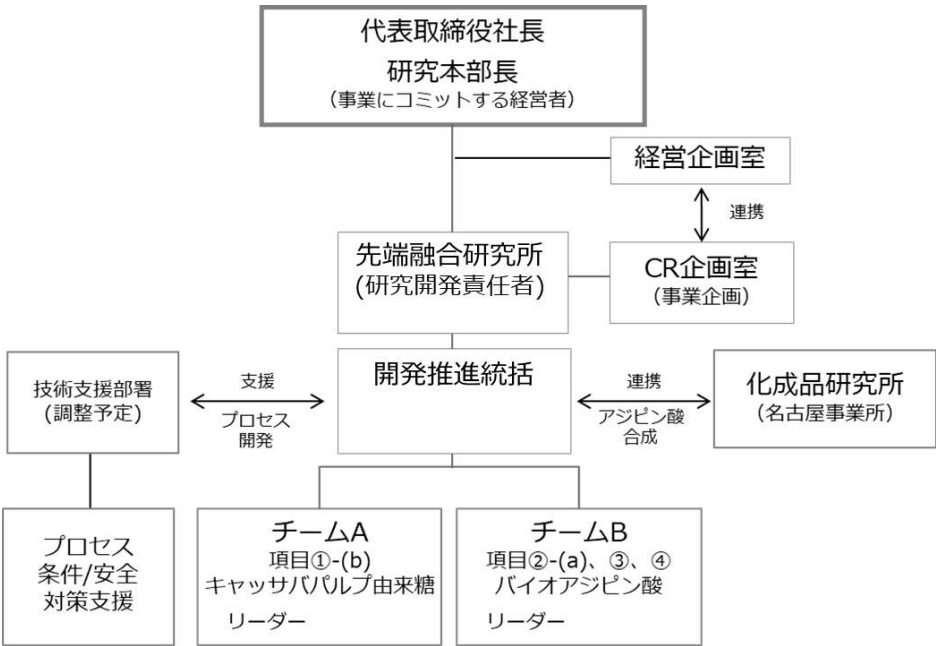


図1 事業推進体制

(2) 経営者等の事業への関与の方針

(a) 経営者等による具体的な施策・活動方針

(I) 東レグループサステナビリティ・ビジョン

2050年に向け、東レグループが目指す、カーボンニュートラルの世界像とその実現のために取り組むべき課題を示した。

- ① 東レ製品によるCO₂排出抑制への貢献
- ② 水素等新エネルギー社会の実現
- ③ 製造段階CO₂排出抑制

サステナビリティ



わたしたちは、革新技術・先端材料の提供により、
世界的課題の解決に貢献します

図2 東レグループサステナビリティ・ビジョンより抜粋

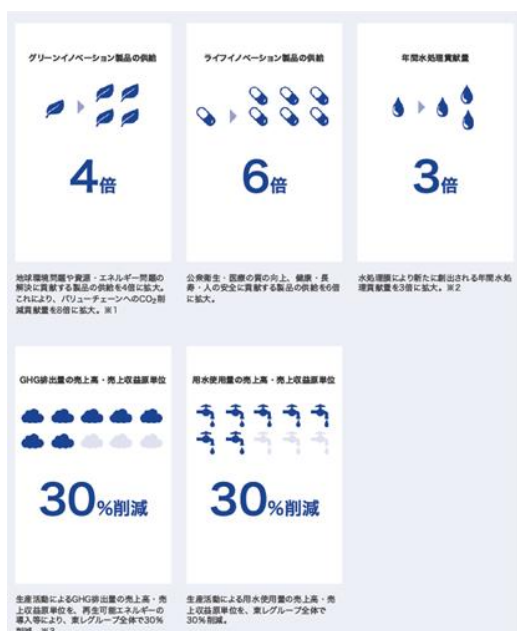
(II) 長期経営ビジョン“TORAY VISION 2030”

2030年に向けた事業環境変化を想定し、数値目標を設定

- ① グリーンイノベーション製品を4倍
- ② プラスチック製品のバイオ化・リサイクル、水素普及に貢献

長期経営ビジョン“TORAY VISION 2030”

2030年までに想定される事業環境変化



重要課題(1) 循環型社会実現に向けた取り組み

プラスチック製品のバイオ化・リサイクル、再エネ・水素普及や水の再利用等に貢献

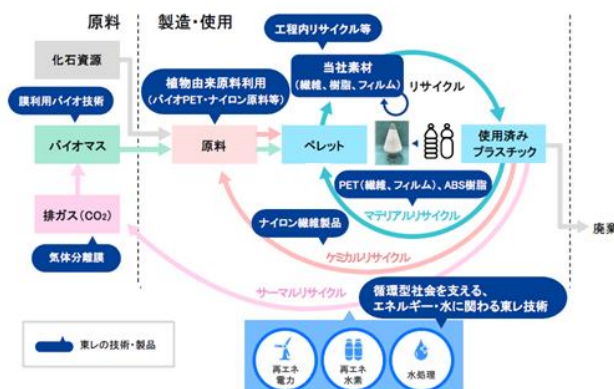


図3 “TORAY VISION 2030”－持続的かつ健全な成長と社会的価値の創造－より抜粋

(III) SI (サステナビリティ・イノベーション) & DI (デジタル・イノベーション) プロジェクト

東レグループサステナビリティ・ビジョンの実現に貢献する事業をSI事業と位置づけ、DI事業と合わせて2025年度連結売上収益の約6割まで拡大させる計画としている。本事業で取組む未利用資源からの糖およびバイオアジピン酸製造に関する研究開発は、社長をリーダーとするFuture TORAY-2020sプロジェクト(FTプロジェクト)にて全社体制で推進している。

SI事業プロジェクトリーダー：社長

目標：2030年売上4000億円

基幹ポリマーのリサイクル、バイオ化、CO₂利用原料使用比率20%

SI-① 気候変動対策を加速させる製品

SI-② 循環型資源利用と生産に貢献する製品：バイオマス由来原料使用の製品、バイオマス利用技

術

Future TORAY-2020sプロジェクト（リーダー：社長）

SI-③ 安全な水・空気により環境負荷低減に貢献する製品

SI-④ 医療・公衆衛生に貢献する製品

(b) 経営者等の評価・報酬への反映

本事業の研究開発内容はFTプロジェクトとして社長直轄下で全社的に推進しているため、その進捗はコミットしている担当役員の評価・報酬に一部反映される。

(c) 事業の継続性確保の取組

前述の通り、未利用資源からのポリマー原料製造技術は関係する複数の取締役が参加するFTプロジェクトとして対外的にも発信しているため、経営層が交代しても事業は継続して実施していく。

(3) 経営戦略における事業の位置づけ

(a) 取締役会等コーポレート・ガバナンスとの関係

上記FTプロジェクトを未来の東レが行うべき事業テーマを育成するための重要なプロジェクトと位置づけ、技術開発の進捗のみならず、事業環境変化のフォローや市場投入戦略・事業立ち上げ計画の策定に関する意思決定や優先順位付けを、社長始め技術・生産・販売部門のトップを交えて年1回以上の頻度で行っている。またマイルストーン達成遅れに対する挽回策を委員会にて報告・審議することで経営層コミットの元で迅速な対策を取れる体制となっている。上記の推進テーマは中期経営課題などの経営戦略にも反映されており、定期的に社外に発信することでコーポレート・ガバナンスにも関連付けられている。

(b) ステークホルダーとの対話、情報開示

決算説明会等で、事業の将来見通し・リスクを投資家や金融機関等、ステークホルダーに対して、説明している。

情報開示の方法

・中期経営課題“プロジェクトAP-G 2025”

FTプロジェクトとして、バイオマス原料活用、プロセス技術開発を長期育成テーマとして課題設定し、技術開発および新事業創出を推進している。

新事業創出 ―FTプロジェクトの推進―

基本戦略2 価値創出力強化

社会課題解決に貢献し、東レグループの成長ドライバーとなることが期待される大型テーマへのリソース重点投入により、対象テーマ全体で2020年代に1兆円規模の売上創出を目指す

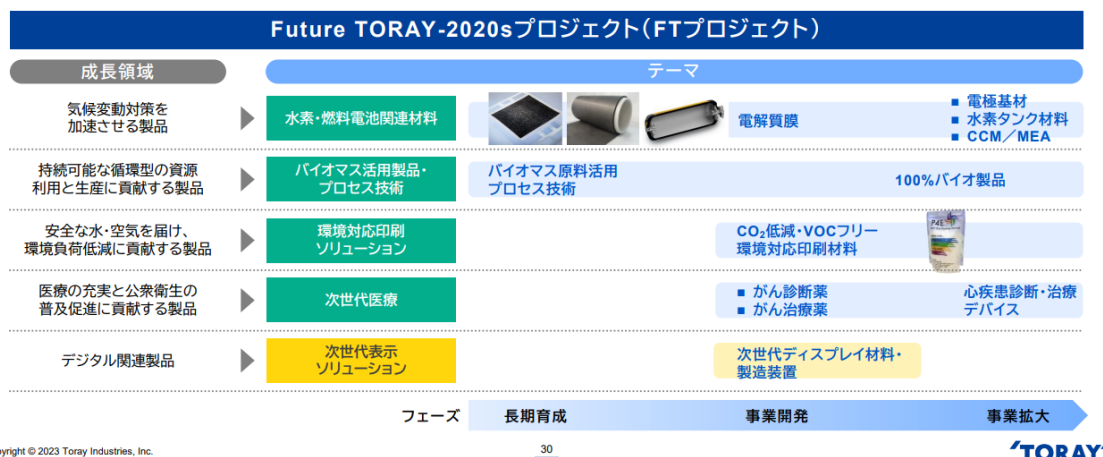


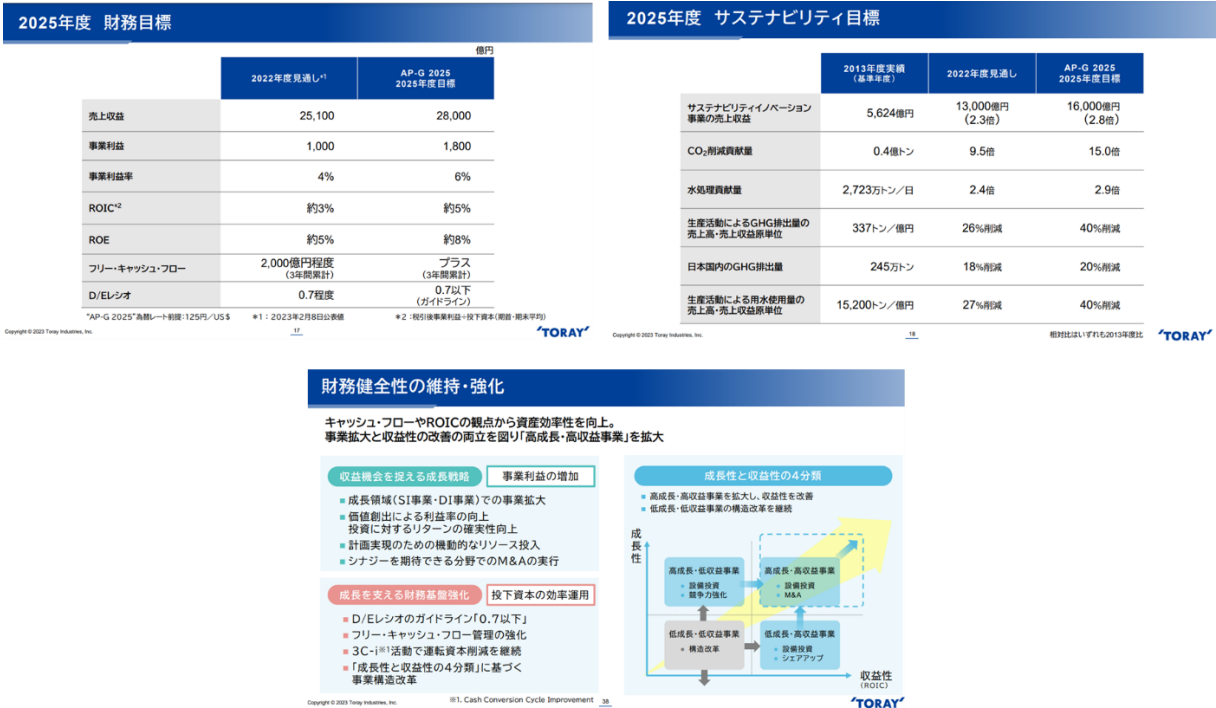
図4 Future TORAY-2020sプロジェクト(FTプロジェクト)概要

・IR資料・報告書

- ① CSRレポート: <https://www.toray.co.jp/sustainability/download/>
- ② TCFDレポート: https://www.toray.co.jp/sustainability/tcfd/pdf/TCFD_report.pdf

(c) 企業価値に関する指標との関連性

- ・中期経営課題“プロジェクトAP-G 2025”において、事業利益1,800億円、事業利益率6%を目標設定。
- ・目標達成に向けてサステナビリティ・イノベーション事業(SI事業)の売上収益を2.8倍にする。
- ・「価値創出による利益率向上」を目指す。現行ポリマー製品のバイオ化により利益率向上を図る。



(3) 事業推進体制の確保

(a) 経営資源の投入方針

実施体制の柔軟性の確保

- ・開発体制の見直し検討：必要に応じて、開発体制を見直し、リソース追加投入を検討する。
- ・オープンイノベーション推進：開発遅れ、新課題発生時には、必要に応じて、課題解決に繋がる技術や知見・ノウハウを保有する企業、アカデミア、研究組織との共同研究を実施し、挽回策を早期に講じる。
- ・外部リソース活用：躊躇なく外注先などの外部リソース活用を検討する。

(b) 専門部署の設置と人材育成

専門部署の設置

- ・微生物・バイオものづくり研究に取り組む先端融合研究所を専門部署として研究技術開発を実施する。
- ・タイ CBT 社を活用して、現地バイオマス資源の利用技術の実証を進めるとともに、原料企業（デンプン企業）などとのサプライチェーン構築に向けた連携強化を進める。
- ・事業企画としては、本社・CR 企画室（CR: Corporate research）、経営企画室が支援する。実証段階においては、ケミカルプロセス専門部署に支援を要請し、安全対策等を実行する。

若手人材の育成

- ・人材育成：バイオものづくり、非可食利用技術を中長期的に担う若手優秀人材の育成を強化
- ・学会・社外連携活動：国際会議、学会・セミナー、社内連携等の機会を通じて人材育成を強化

- ・他の共同提案者と課題分担・連携して、技術課題の解決、実証試験を推進する

以上